

## 業務用扉の正体は!?

皆さん、標題は夏の季節に現れる者の話しではありません。

新大阪駅の業務用扉の錠の「未鎖錠」が今年になってから頻繁に発生していることをご存じでしょうか。

セキュリティ上の問題もあるので詳しくは述べませんが、新大阪駅のホーム端に関係社員が通行するための専用の扉があります。関係者以外は通行できませんので当然、扉には錠がかかるようになっています。

しかし、この扉の錠が締まっていない状態「未鎖錠」が今年に入って頻繁に発生しています。錠がかかっている状態が発見されると、そこを最後に通過した社員に対して事情聴取が行われます。これは乗務員に限らず駅員や車販従業員、清掃従業員など、JR西日本の会社内でも行われているそうです。

事情を聞かれた社員の記憶はそのほとんどが「締めたつもり」で通過しているのが現状です。管理者が口にするのは、「セキュリティ意識」「いつもどうやってるのか」「しっかり確かめたのか」などのキーワードが常です。多くの関係者がそうした経験をしている中で、責任を追及されそうになった方もいます。

扉が設置されてしばらくの年月が経ちますが、機械も使えば消耗しますし、扉を通過する社員の数も相当の回数を数えるはずで、私たち組合は、社員への聞き取りや「時系列等報告書」を書かせるだけでは「未鎖錠」はなくならないと主張しています。

## 組合が対策・改善を求めて申し入れる!

会社は、最近になって扉の締め方やシールを貼るなどの指導をしていますが、本当にこの対策が功を奏するのかと疑問を感じます。

組合が申し入れた内容にも、扉の交換や修理などの抜本的な対策・改善をするように申し入れています。ボタン式で推すボタンやタッチ式の画面も使えば減るはずで、これらが原因となって故障や不具合として現れているのではないのでしょうか。皆さんはどう考えますか？

社員への責任追及ばかりが対策ではありません。そこには必ず原因があるはずです。